

## 第84回「資本論を読む会」の案内

☆次回は-2月25日(水曜日)

午後6時30分からZoomで開催

第11章「固定資本と流動資本に関する諸理論。リカード」[岩波文庫(四)p317~]

# DAS KAPITAL



新年最初の第83回「資本論を読む会」は1月27日に開催しました。大雪の後、衆議院選挙告示前という悪天候と告示前集会のもと、8名の参加で行われました。

前回の固定資本と流動資本に関する諸学説前半に続

――上図で「Viel Glück!」はドイツ語で「頑張ろう!」の意味――

く後半部分(292P-316P)。レポーターはKatoちゃんでした。

前回と同じく、アダムスミスと固定資本と流動資本の規定に対し、その誤りについてマルクスが具体的に指摘している各箇所の展開について、アダム・スミスが固定資本と流動資本との区別を、生産資本と商品資本および貨幣資本との区別と混同している。スミスは、流通資本(商品資本と貨幣資本)と流動資本を混同している。とのマルクスの結論をどう理解するかにあった。

全体の流れについては、ある程度理解できるものの、スミスの固定資本と流動資本の規定が、異なる質量、使用価値で混同して規定されているため、まずその間違いを理解してマルクスの指摘を読み解くことが必要なのであるが、前回同様にページ段落に書かれている具体的なスミスの規定の誤りを理解するには、少々時間が不足した。何度も繰り返して読むことで理解を深めたい。

マルクスは、剰余価値が固定資本と流動資本から、流通過程からは生みだされない、生産過程での生産資本・労働力から生み出される、という結論を第一巻で述べており、この章では、スミスがなぜそこに至らなかったのか、利潤が固定資本と流動資本から生じるというスミスの限界を多くの事例から誤り・混同として例示している。次回のレポーターはKaiさん、お願いしますね。

終了後の懇親会は公示日と重なったこともあり、総選挙情勢などで一色々と各自の分析が飛び交って、11時半に閉会としました。

「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから-Katoちゃん

### 第4章 固定資本と流動資本にかんする諸理論

- ・A・スミスは、本来、不変資本と可変資本という本質的区分による剰余価値形成を、固定資本と流動資本とに固執したため、資本主義的生産の秘密(搾取)が隠され、その後の経済学に影響を与えた。
- ・A・スミスは、固定資本と流動資本が生産物形成者であるとの観念を説明。さらに、固定資本、流動資本となる諸物の区別を、生産資本と流通過程にある資本に属する諸形態である商品資本および貨幣資本の区別と混同している。
- ・A・スミスが流動資本の構成部分に、労働力を入れていないことに二つの理由がある。一つは、流通部面では資本でない労働力を、彼のいう流動資本に入れられなかった。もう一つは、彼は労働力を固定資本の部類に入れていたため流動資本に入れられなかった。
- ・A・スミスは「全ての固定資本は流動資本から出ているものであり、たえず流動資本によって維持される。マルクスは、スミスが流通資本(商品資本、貨幣資本)と流動資本とを混同しているからと批判している。
- ・A・スミスが、労働者の生活手段を固定資本に対する流動資本と規定し、流動資本と流通資本を混同していることに気が付いていない。